

第3回出雲採択地区教科用図書採択協議会会議録

期 日 平成27年8月4日(火) 13:30~14:30

場 所 出雲市役所 403号室

出席者 各市町教育委員会教育長4名、保護者等代表4名、出雲教育事務所指導主事1名
事務局：出雲市教育委員会学校教育課 課長、主査、主事(教科書担当)

(1) 会長あいさつ

(2) 協議

課長 それでは協議のほうに入りたいと思いますけれど、本会の規約によりまして会長が議長ということになっておりますので、以下の進行につきましては会長のほうでよろしく願います。

会長 第2回の協議会、それから本日の会議の会議録について事務局のほうから説明をお願いします。

主査 第2回の採択協議会の会議録ですが、現在作成中でございます。後日、本日の会議録とともに郵送で委員の皆様にお届けをしますのご確認ください。それでご意見のある方は今月21日の金曜日までに事務局までお知らせ頂ければと思いますのでよろしくお願いいたします。

会長 それでは早速、協議事項の①社会の歴史分野のほうから始めたいと思いますが、追加調査の報告をお願いいたします。

[社会科・歴史的分野]

代表調査員 今回は2社に絞ってということで報告をさせていただきます。

まず、1番の評価基準についてです。分量ですが、A社が全部で285ページ、K社が268ページでした。A社が多少多かったです。両方とも93の小单元があり、同じでした。特設のページや索引などを除いた本文は、A社が189ページ、K社が196ページということで、K社が少し多かったです。その理由としましては、室町文化や元禄文化の記述はA社が2ページなのに対して、K社は4ページで、K社は文化史のほうが充実していることが挙げられます。それから人物はA社が346名、K社が299名ということで50名近くの差がありました。私も「おやっ」と思って調べますと、A社のほうは、たとえば応仁の乱の対立関係図に人物名が載っていると、それもすべて索引に掲載されています。それに対しK社のほうは索引に載せていないということがありまして、人物の量はほとんど変わらないことがわかりました。ただ、少しK社のほうが文化的な面を多くとりあげているのかなという傾向が窺われました。

次に内容についてですけど、両方の教科書とも基礎基本がしっかりとおさえられていて、表現も生徒にとって大変分かりやすくなっています。何箇所かを抜き出して比べて読んでみましたが、こちらがはるかに優れているというのは見受けられませんでした。大体同じかなという感じです。

それから2番についてですけど、「小学校との関連」と「時代の大観」という視点で見ました。A社のほうは、章の初めのところに年表があり、小学校で出てきた人物がイラストで載せ

てあって、小学校の学習内容が想起できるように工夫がされております。それから、A社は章末のところにまとめの年表があって、それが章の初めの年表とつながっていて、非常につながりがわかりやすく工夫されていました。それに対して、K社のほうは、前回もお話しましたが「タイムトラベル」という想像図がありまして、小学校のときの学習の様子も思い浮かべられますし、時代の様子をイメージとして捉えやすいという特色があります。

それから3番の興味関心への配慮等ですけれども、コラムや特設ページのほうを注目していただきました。A社のほうですが、「深めよう」という特設ページが13項目あります。内容を読みますと、北海道の擦文文化とか、松方財政とか、イスラム教の幾何学とか少し難しい言葉等がありますが、歴史が大変好きでたまらない生徒にとっては面白いと思います。また、「歴史にアクセス」とか「女性コラム」、それから「人物コラム」等が数多く載せられております。K社については、特設ページでは、「トライアル歴史」が2ページ、それから「歴史を探ろう」が13ページありました。これについては、絵とか写真が非常に多くて、多くの生徒が、「ああ。おもしろそうだな。」と考えられるようなものでした。その他、コラムとか地域史が少し特色あるものです。それから、小単元名に多少工夫がみられるということについてですが、例えば太平洋戦争あたりのところですけども、A社が「第二次世界大戦の始まり」に対して、K社が「第二次世界大戦への道」と、あまり変わりませんが、A社が、次は「太平洋戦争の開始」に対して、K社は「太平洋戦争と植民地支配の変化」、続いて、A社が「戦時下の人々」に対してK社が「戦局の悪化と戦時下の暮らし」というように、多少K社のほうに工夫がみられました。それから、竹島、同和問題学習についてですが、前回も申しあげましたように、A社のほうは竹島について特設ページがあって、歴史的な観点から詳しい記述があるのが大きな特色です。同和問題学習については、両方とも室町文化のいわゆる「河原者」と呼ばれた人たちの庭造り、それから、江戸時代の最初の身分制度、それから明治時代のいわゆる「解放令」、水平社あたりのところがいずれもきちんと記載がされておりますが、大きな違いとして、A社はいわゆる「解放令」から水平社へということ、特設ページで2ページにわたって詳しく記述がされております。それに対してK社は、「人権」というコラムで、先ほど申しました項目がずっとつながって、大変わかりやすく理解できるように工夫がなされております。これもどちらが良いのかというのは非常に難しいところですけども、詳しく考えるというところではA社全体の流れをつかむというところではK社ではないかと思っております。

それから、5番ですが、これはまとめと言語活動についてです。A社・K社両方で終末の「この時代の歴史を確認しよう」「学習をふりかえろう」で、言語活動を取り入れた学習ができるようになっておりますし、A社は「私たち歴史探検隊」、K社は「トライアル歴史」というところで、さらに詳しく言語活動がなされる工夫がしてあります。ただ、章末のまとめのほうをみると、K社のほうがより、基礎基本の振り返りをしっかりとしたうえで言語活動ができると判断できます。その他のところですけども、現在地理、公民ともにA社の教科書が使われていますが、教科書が同じパターンでできておりますので、使いやすいのではないかと考えてられます。それから、A社は毎時間ねらいと振り返り活動で言語活動ができるようになっております。それに対してK社は、ねらいが「学習課題」というところで明記されていて、さらに最後のまとめで「確認しよう」、「説明しよう」と二段階あって、「確認しよう」で基礎基本の定着がなされ、それにプラスして「説明しよう」で言語活動も期待できるという構成になっております。

総括としましては、A社のほうが竹島問題や同和問題学習が詳しく述べられている、地理や公民との関連がはかりやすい、それからより詳しく学びたい生徒にも良いのではないかと考えてられます。それに対してK社のほうは、より多くの生徒が歴史学習に興味をもてるということ、文化的な面のところも詳しく学習ができる、それとともに基礎基本をしっかりとおさえるということが期待できると思います。現行の学習指導要領の改訂のときに、基礎基本

の知識の習得、言語活動の充実、社会参画や伝統文化、宗教に関する学習の充実ということが重要視されておりました。そういったところを考えまして、両方とも大変優れた良い教科書で、私たち調査員としても、大変頭を悩ませたところではありますけども、生徒が興味を持って学習でき、基礎基本がしっかりとおさえられたうえで言語活動ができる、文化面もしっかりと学習ができるということで、K社のほうがより良いのではないかという結論に達しました。以上です。

会長 それでは、委員の皆さん。何かご質問ご意見がありましたらお願いします。

委員 A社だと、地理、公民と統一的で分かりやすいとおっしゃいましたが、もしK社を選んだとしたら、勉強をするときの先生たちの工夫が必要だとかそういうわけではないですかね。

代表調査員 それは特に必要ないと思います。

委員 では、そんな問題はないということですね。

代表調査員 子どもも教員も、特にK社では困るとか、そういったことは考えられません。

委員 竹島問題に関して、A社のほうはかなり詳しく記述があつて、もう一つのところはないわけではないが詳しいということですが、それに関しては、どうでしょう。

代表調査員 もちろんK社でも、記述の部分がありますので、ないわけではありません。それから、社会科の教員は、竹島学習それから同和問題学習については、いろいろな教材も用意されておりますし、教科書だけでなくいろいろな教材を工夫して使っておりますので、十分補うことができます。

委員 わかりました。

会長 他はどうでしょうか。よろしいですかね。

(代表調査員退席)

会長 それでは、今の報告を踏まえて、ご意見を伺いたいと思いますが、何でもけっこうですが、どうぞ。

委員 今日のような説明をしてもらうと、判断がつきやすいです。この前わからなかったことも、しっかり説明してもらいましたので。

委員 管内の子どもにとって、調査員からするとこうだということを明確に言ってもらって、なぜそうなのかっていうのを説明してもらおうとわかりやすいです。

委員 聞いている途中から「これでいいな」という思いをもちました。

会長 前回、A社のほうが良いような印象をもっている方が何人かいらっしやって、なかなか甲乙つけがたいということもあつて、追加調査でお願いしましたが、違いが明確になるように調

査研究していただいて、今日は分かりやすい説明もありました。それからなんといっても現場で使いやすいというのが、大きな要素であろうかと思しますので、ただいま報告がありましたように、歴史的分野については、K社のほうを採択するというところでよろしいでしょうか？

各委員 はい。

会長 それでは、社会科の歴史的分野はK社ということで決定をさせていただきます。

【保健体育】

会長 では続きまして、協議事項の②、保健体育の報告をお願いいたします。

代表調査員 4つの教科書について、全体に目を通させて頂きました。それで、主に目次、印刷構成、巻頭での教科書の使い方、保健体育の学習方法と学習活動の構成について説明をさせて頂いて、あと、すべての小単元を見て気がついたところについて説明をさせていただきます。

まず、くくり構成ですけれども、A社の教科書だけは、学年別に保健と体育、この学年でこの単元をとというふうに指定がしてあり、あとの教科書については、保健のくくり、体育のくくりがあって、学年の指定はありません。これにつきましては、ベテラン教員は、学校の中の保健安全に関する学校行事との関連で、保健の授業を構成したりすることがあるので、学年のくくりまで必要がないですが、初めて体育の授業をおこなう若い先生は、この構成があったほうが、見通しがたてられて良いのではないかと思います。

それから、印刷構成ですけれども、前回も話しましたように、A社とB社については、淡い色が使っていて、色覚に課題のある子どもに過度の刺激を与えないようになっています。教室の掲示物も、できるだけ原色を避けている実態もあります。K社とL社については、基本的に原色が使っていて、L社はバックの黄色の上に黒い文字が書いてあって、すごくはっきりしています。我々が見るのには見やすいですが、ちょっと刺激が強いのかなという感じがします。それから、K社のほうですけれども、グラフに工夫がみられます。例えば、4つのグラフの線を使うのに、実線が2つ、点線が2つ、それに色を変えているという構成ですが、これも色覚に課題のある子どもにとっては、ちょっと苦しいのかなという気がしました。

それから、口絵のほうですが、どの教科書も子どもたちの興味・関心をひく上で、よく工夫がなされていました。今、食育は教育の大きな課題でもありますので、L社以外の教科書については、スポーツ選手の食事について書いてあったり、ページ数を割いて食育についてたくさんふれてあったりしていました。しかしL社につきましては、食育に関する部分に全然ふれていませんので、ちょっと残念かなと思ってみました。

それと、オリンピックを意識してのことだと思いますけど、トップアスリートとか選手をたくさん載せたり、「学びジャパン」にいろいろな人を載せたりしています。このような時期ですので、子どもたちの興味・関心を引くと思いますが、あまりスポーツ選手だとか有名人をたくさん載せないほうが良いと個人的に思いました。

それから巻頭のほうですけど、どの教科書にも小学校や高校の内容のことを意識して書いてあります。特にP社については、高校でこのように習うということや小学校で学んできたことを紹介したり、キャリア教育の視点で人の紹介がしてあったりして、授業の導入の段階で非常に使いやすい工夫がしてありました。

それから教科書の使い方ですけど、それぞれめあて、あるいはキーワード、いろいろな語句が使っているんで、子どもたちにとって授業の流れが分かりやすくなっています。L社は学習のめあてという形ではなくて、「Question」という形でこの時間に学ぶ内容が質問形式で出て

いますが、「今日こういう学習をするんだ」ということが箇条書きで明確に示されている、A社、B社、P社のほうが良いと思います。

それから保健体育の学習方法の項目をA社とP社は挙げています。子どもたちの能動的な学びを促進していくということで、ディスカッション形式の学習や課題解決学習、発表やブレインストーミング等々のいわゆる授業の中での話し合い活動に視点を置いた学びがきちんと示されていますので、子どもだけでなく教師が見ると、すごく方向性、あるいは授業の手法として工夫、改善に役立てられると思いました。

続いて学習の活動の構成です。特にP社の方ですけど、教科書の中の「ウォームアップ・エクササイズ」、「情報サブリを活用しよう」は、子どもたちの能動的な学習活動、いわゆるアクティブラーニングの導入が容易になる工夫がなされており、話し合う内容、視点についても明示されているので、若い先生にとっては授業の構成は分かりやすいと思います。反面、指導者の意図とは少し違う内容の話合いの例示もなされていますが、このような提示がなされている方が、授業の構成、見通しは立てやすいと考えます。

巻末の資料ですけど、巻末に練習方法などが入っているのがA社とP社、学級活動あるいは総合的な学習の時間など他の教科等において、保健で学習したことを活用しながら健康安全に関する学習活動を展開するときにもP社のものは非常に使いやすいと思います。

以下、少し細かいところですが、L社の文章表現が、中学1年生・13歳くらいの子どもにとっては言い回しや表現が難しいと思います。

それと1年生の後半に、人間関係を作っていくところの欲求不満、あるいはストレスへの対応といった学習内容がありますが、P社はいろいろな事例により学習活動をするような構成になっていますが、L社については適応規制という高校で学習する言葉について、いろいろな欲求不満、ストレスに耐えていかなければならない、なんとか解決していかないとならない等々の記述で終わっていますので、子どもにはわかりにくいかなと思っています。

それから2年生の保健編「水の役割と飲料水の確保」のところに「トリハロメタン」という皆さんもお聞きになったことがあると思われる言葉がありますが、塩素をたくさん使うことによって発癌性の物質トリハロメタンが生成されやすくなります。また、クリプトスポリジウムという塩素で死滅しない病原体が発見されて、これも含めて水道法が改正されて水質検査の基準の見直しが行われているという記述がP社ではありますが、L社についてはトリハロメタンがあるという記述のみですので、この最近の流れについてはもう少し書かれた方がいいかと思っています。

また、2年生の保健編「傷害の防止」で、よく中学生が自転車で事故などをしますが、このような危険性について自分たちで考える演習や実習がP社にあり、工夫がなされていて子どもにとっては、非常に分かりやすいと思います。3年生の保健編「健康の成り立ち」の部分で、L社には「日本で元気だった人があまり衛生的ではない外国に旅行したところ、現地の水や食事でお腹を壊すことがあります」という記述があり、子どもらは「そこはどこ？」と聞いてくるのが予想されます。他の教科書では、日本の昔と今を比べて生活水準が変わってきてという切り口で書かれていますが、他国との比較として書かれているのはこの教科書だけで、記述としてはちょっと気になりましたので報告をしておきます。

また、環境のところで放射線による内部被ばく、外部被ばくの被害が全部の教科書に書かれています。東日本大震災での発電所等々の被害について最も配慮がしてある記述があるのはP社であると思って見させていただきました。

また、スポーツの学び方のところで、いろいろなスポーツがある中、ゴール型、ネット型、ベースボール型と言われる3つの分類、そして技術・戦術・作戦という視点でのスポーツの学び方があると思います。P社のほうは我々がよく使うPDCAサイクルということを子どもにも示して、練習の計画を立てる、実行する、それを検証する、そして改善していくとい

うサイクルでスポーツを学んでいくという説明の仕方がしてあり、それはとてもわかりやすいという思いをもちました。

最後になりますが、この地区の子どもたちが使っている教科書はP社のもので、現在の2、3年生は来年度もこの教科書を持つわけです。この教科書には、能動的な学習のできる学習形態のものが参考資料として加えられているので、教師の方ではこれで2年、3年生の指導をしますが、新しいP社の教科書をもって役立てていく、工夫改善をしていくというのが一番よいと思って、一番推薦させていただくのはP社ということで私の報告は終わらせていただきます。

会長 ありがとうございます。では、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

委員 前回スポーツ障がいとか、パラリンピックとかの視点で教科書を見た場合どうなんだろうということを行いました。A社、B社、L社、P社の4社ありますよね。スポーツ障がいとかパラリンピックとか障がいのある方のスポーツとか、そういうことについて一番詳しく書いている、丁寧に書いているのはどの教科書ですか。

代表調査員 スポーツ障がいの記述については、全ての教科書で取り扱っていますが、一番紙面を割いているのはA社です。L社は本文で取り上げられており、他の教科書では参考文献とか資料という形で取り上げられています。一番紙面を割いてスポーツ障がいを5つあげているのはA社です。

委員 次はどうですか。

代表調査員 量で言えば、次はP社だと思います。その次はL社だと思います。それとP社については、アレルギーについての記述が新たに入っています。他の教科書には入っていません。アレルギーについては、悪い生活習慣によりアレルギーになるわけではないですが、生活習慣病の最後の巻末資料で今課題のアレルギーについて紙面を割いています。

委員 そういう視点で評価してみて、総括としては前回示されたものと大きく変わったところはないですか。

代表調査員 大きく変わったところはないですが、前回、A社とP社が良いと言っていたのですが、よりP社のほうが使いやすいと思っています。

委員 食育については、P社だけに書いてありますか。

代表調査員 口絵で、きちんと食育について紙面を割いて写真を入れて解説してあるのがP社ですね。

委員 スポーツ障がいについて、一番詳しく記述されているのがA社、その次がP社ということでしたよね。私見ですけど、例えばP社の155ページのケガと練習計画というところで、スポーツ障がいということがこの中に少し出ています。これだけの紙面でP社のほうが紙面をよく割いているということでしたが、実際L社を見たときにどちらがわかりやすいか。例えばL社のスポーツ障がいと比較したときに、P社の方がスポーツ障害については記述が優れているという根拠がわかりません。

委員 スポーツ障がいについて、L社は28ページの半分以上を使って書いてありましたよね。内容としては症例としてはオスグッド病と腰椎分離症、踵骨骨端症があり、クールダウンが必要ということが書いてあります。

委員 P社は155ページのこの部分だけですよね。あと89ページにも少し。

代表調査員 スポーツ障害の種類自体は、A社が6種類。B社が4種類です。

委員 私が見た限りですけど、A社がテニス肘とか野球肘、腰椎椎間板ヘルニア、オスグッド・シュラッター病、サッカー足の5例。B社はなし。L社がオスグッド病と野球肘の2例。P社が同じく2例だと思います。A社は104ページ、B社は25ページ、L社は28ページ。P社は155ページに載っています。

委員 あと、教科書の見やすいのは確かにA社ですよね。これも色が工夫されているという評価をされていますよね。それからL社も見やすいです。薄い黄色ではっきりわかるし、工夫はされていると思います。A社というのは見やすくできています。前はA社とP社が良いということでしたよね。それで、いずれも甲乙つけがたいということでしたが、今回はさらに調査研究を行って、P社が良いということですよ。

代表調査員 はい。

会長 他はいかがでしょうか。

委員 現場で使いやすいというのが一つと、子どもにつけさせたい力というのが観点であるかと思いますが。今、P社が最も良いということですが、総括で言うとどの点が一番優れていて、P社が良いかということを中心に聞かせていただきたいと思います。

代表調査員 最初にお話をさせていただいたとおりですが、学習方法について、「ウォームアップ」とか「キーワード」とか「エクササイズ」とか「情報サブリ」という名前で、子どもたちが話し合いをしたり、自分の生活の中で振り返りをしたりするような仕掛けが随所にあり、多分若い先生にとっても子どもにとっても、授業を構成していくのにはわかりやすいだろうということで、これが一番良いと考えます。

委員 思考力、判断力、表現力とか、これから重要になっていくアクティブラーニングを考えたときに、P社が最も良い教科書だという考え方でいいですか。

代表調査員 そうです。

委員 前回は出ましたが、これから若い年代の教員の方がやっぱり指導するうえで一番使い勝手がいいP社が、他の教科書より優れている感じがします。そしてアクティブラーニングの観点からも相互性を考えると、まとまりがいいのはP社と理解をしています。

代表調査員 こういう視点で話し合いをさせるとか、一部指導書のような部分が教科書にどんどん入ってきています。ベテランの教員は授業構成するときに、あまりにも学習形態なり、方法なり手段が教科書に載っていると、反対に構成しづらくなります。でも、これで助かる教員もかなりいると思うので、4つの教科書を見させてもらったとき、P社が一番授業構成しやす

くて、子どもたちにわかりやすい授業を組んでいけるのかなと思いました。

委員 それが一番だと思いますが、学習活動の構成を見たときに、学習のめあてが明確で基礎・基本、思考力を身につけていこうということがA社もP社も書いてありますが、実際比較したときにA社は、やってみようとか考えてみようとか、しっかりと大きく明確に書かれていますよね。P社の方は例えば暑さや寒さの感じ方には何の関係しているかと、ちょっと書いてあるだけです。子どものやる気だとか意欲を高める表現の仕方がこのA社は非常に良く、動機づけや関心を高めることについて上手く構成された教科書ではあると思いますけどね。

会長 他はよろしいですか。よろしいですかね。それでは大変お世話になりました。

(代表調査員退席)

会長 これまで説明を受けましたが、いかがでしょうか。委員の皆様。

委員 改めて思いましたがAB版で幅の広い教科書は、持った感じも持ちやすいし、すごく開きやすいですね。

委員 私は前回A社とP社、L社も捨てがたいと思いましたが、A社とP社を比較するならP社かなと個人的に思います。非常に見やすいし、なかなかいい教科書だと思います。

会長 他はいかがですか。

委員 私も前はA社と思っていましたが、今回A社とP社に絞ったということで改めて見て、教えられる方からも分かりやすくなっているということならP社がいいのかなと思いました。今回ははっきりとしていたので。前はどれも素晴らしい、と言われたから余計にわからなかったです。今回ははっきり明確に言われたので。

会長 私も見ましたが、おっしゃったようにL社も見た感じ分かりやすいものがありました。でもそれは感覚的な話で、授業を組み立てやすいとか、子どもたちの学習活動の深まりとかを考えるとP社が一番良いということでした。やはり現場の先生方が使いやすく指導がしやすい、子どもたちにとっても学習が深まるということでの推薦ですので、P社ということでよろしいでしょうか。

各委員 はい。

会長 それでは保健体育はP社ということで決定させていただきます。

会長 以上、ここまでが採択協議会としての教科用図書選定ということになります。今回決まりました、採択された教科書について、来年度から使用していくということで決定をさせていただきます。全体を通して保護者委員のみなさんにご意見、ご感想を聞かせていただきたいと思いますが、何かあればお願いします。

委員 私は今回で中学校は2回目になりますが、内容が多い中で、忙しい先生たちが、仕事が増えて大変な先生たちが、これだけの資料を作られるのがとにかく凄いなと、改めて思いました。

委員の皆さんの鋭い質問があつて、違う視点から私たちの意見が出るので、逆に研究員の方たちにも勉強になったのではないかと勝手に思うのですが。やはりこの地区の子どもたちがより学習意欲を持てるように、という観点で今回すごく説明されていたので、指導する先生がやりやすいと感じていただいて一生懸命調べていたというのは、やはり良かったと思います。今後、子どもたちの学習意欲が上がっていくのを期待しています。

委員 私は初めて参加させていただきましたけれども、調査研究される方も先生ということで、現場で実際に子どもを指導される立場にありますので、指導がしやすい、授業を進めていきやすいという観点での教科書選定もあるのかと思いました。一方で、子どもたちが全体的に学習意欲を高めていくためには、入りやすいレイアウトとか内容とかを織り込んだ教科書というのも必要な要素であるか思います。また、教わる側の子どもたちにとって入りやすい、学習意欲を高められるような工夫があるというのも必要な要素になってくると思います。個人的には今回教科書協議会で採択された以外で推したい教科書があつたりして、実際に親の立場で見て、この子だったらこれがすっきり入るかなとかいうようなところで見させていただいたところがあります。でも、やはり総合的に評価した場合に指導のしやすさ、それから教科書と先生と一緒に教えていく相乗効果が一番図られるようなものがふさわしいと思います。そういうところで教員のみなさんの意見を基にして採択に至ったのかなと思いますので、これはこれで非常に合理的な採択の結果だと思います。

委員 大体皆さんと同じというか、大体皆さんに言いたいことは言っていただきましたが、前日もこの会に参加させていただいて、本当に忙しい中、先生方が取り組まれたことに感謝したいことと、やっぱり私なんか全部を見切れているわけではなくて、調査員の方が私たちに向けて「これでいいんだ」という判断を与えてくれる。その判断のしかたが、私たちが納得できるかという視点でずっと見させていただきました。管内の子どもたちにとっていいんだ、というふうイメージしやすい説明をしていただけるとよかったな、すっきりしたなという感じでした。

委員 本当に何もありません。みなさんのおっしゃる通りで、一点だけみなさんおっしゃられなかったことですが、私は別冊は嫌です。全体を通して、教員の方も非常に熱心に研究されて大変だったと思います。

会長 ありがとうございます。採択協議会の選定結果について事務局から補足の説明をお願いします。

主査 本日は2種目につきまして教科書採択の選定結果が出ました。この選定結果につきまして各市町の教育委員会におきまして今月 26 日水曜日までに承認を受けていただくようお願いいたします。よろしくお願ひします。尚、承認を得られた場合にはその旨を事務局までお知らせいただきたいと思ひます。以上です。

会長 では、以上で第3回出雲採択地区教科用図書採択協議会を終わります。ありがとうございました。